



第59号

でん太通信

den ta tu~sin

NPO法人
原発ゼロ市民共同 **かわさき発電所 ニュースレター**

●発行 2020.10.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

■9/19「第6回おひさまフェス×星空上映会 in かわさき」を開催

おひさまフェス×星空上映会 実行委員会事務局長 木下 博行（当 NPO 正会員）

「I Believe in Future 信じてる♪」

歌声が、暮れ静まった会場に響き渡る。

第6回のおひさまフェス×星空上映会が終了した。

興奮の残る会場からみんな中々立ち去らない。

今年のおひさまフェスは、1月に第1回実行委員会をスタートしたにもかかわらず、新型コロナウイルス感染症の急激な拡大により、「諦めざるをえないか？」という状況に陥りました。「清水の舞台から飛び降りる」覚悟で実行委員会事務局長を引き受けることを宣言し、取組みを始めたばかりでした。

4月に予定していた実行委員会もコロナ禍で中止せざるを得ず、事務局の中で開催の賛否両論を戦わせてきました。6月の第2回実行委員会で開催か否かの議論をし、中止もあり得る条件付きで開催を決定しました。その後も感染対策の論議を重ね、入り口を1か所にして検温・消毒を行い、マスク着用をお願いすること、川崎市の後援も

いただいていることから、その方面の確認及び保健所への確認も行ないました。また、毎回悩まされる天候にも、直前の天気予報に雨模様が出現し、ヤキモキの中での開催決定となりました。

当日は曇天で一部黒雲が見られる中、準備が進行していきました。入り口を1か所に限定するため縄を張り、検温スタッフも配置。階段を降りたところの本部テントには消毒剤を設置。取り敢えずできる限りの感染対策を完了。

開会の午後3時前には続々と来場者が入場し始め、飲食ブースには食べ物を求める人々が行列し、ひょっとしたら・・・自粛の中でこんなイベントを待ちわびていたのか！？と思えるようになりました。





※画像を加工しています。

「I Believe in Future 信じてる♪」
未来を信じてこのイベントを続けましょう！

メインのテーマである「再エネ&防災ひろば」のブースにも子どもたちが集まっていたし、「かわさき発電所」の展示にも多くの人が立ち寄っていました。クイズラリーがあればもっと盛り上がったのでは、と思いました。「かわさき生活クラブ生協」のムシロボット作りのブースにはたくさん子どもたちが熱心に制作に取り組んでいました。飲食ブースには長い行列ができるほど盛況に。ほとんどのお店が完売だったようです。初めて取り組んだ「本部」での飲み物の販売もほぼ完売、5万円を超える売上となりました。

今回のステージは出演者を絞ったにもかかわらず、「宿河原華匠舞」の大人だけの太鼓演奏、プロの太鼓演奏者「友野龍士さん」の迫力ある演奏、「城谷守さん」の子どもを笑わせた愉快的な腹話術、常連となった「ハイタッチ」の2人、「吉田真理子さん」の歌、そして上映会の開始を告げる「松平さん」のトランペットと多彩なステージとなりました。おひさまフェスの時間にはタウンニュースの取材もありました。

昼間のフェスが終了しても引き続き星空上映会に来場者が入り始めていました。検温時のカウントで850名を超えているという情報も入り、「やった！」という思いが沸き上がりました。小学校に配布したチラシをもらって来場したという小学生たちの声も聞くと、「やはり開催して良かった。」という思いが更に強まりました。

3本の上映作品を土手に座って鑑賞する親子を含め、これまでにない数の来場者が上映会場を埋めていました。上映が終わり、準備したキャンドルステージの演出こそうまくはいきませんでした。来場者を含めたランタンなどの灯りにステージが浮かび上がり、響いた「パブリカ」と「ビリーブ」の歌声は感動的な場面となりました。

様々な心配、苦労を経てやり遂げた今回のおひさまフェス×星空上映会。ご協力いただいた多くの皆さまに感謝したいと思います。



このお祭りで使用している電気は、この電源車（横浜トヨペット様ご提供）が供給しています。この電気は市民が作った太陽光発電所で発電したものです。



「おひさまフェス」に参加したご感想をいただきました♪

傍から見てきた6年目のフェスに思ったこと

鳥海 幸恵（当 NPO 正会員）

毎年、ふらりと遊びにくるだけの参加者です。今年も秋の気持ちいい風、多摩川の水音、いろいろな人との語り合いで、本当に楽しく過ごしました。お天気が不安定な季節に、幅広い年代の方々が多彩なかたちで協力しあう姿に、毎回感銘を受けます。今年は感染症対策で開催そのものに相当迷ったのではないかと思います。集まることにとっても気を遣わされる中で、このような空間を創り上げられた皆さんに感謝します。



今年、強く感じたことがあります。「孫が見るんだってきかなくて…」上映開始間際、小さな女の子に手を引かれ小走りで会場に着いた初老婦人の姿に、このお祭りのアイデアを最初に思いついた方が言っていたことを思い出しました。「あれだけの事故が起きたのに、原発を止められない。それって大問題。「原発反対」だから集まる人にじゃなく、なんとなく楽しそうだから来た人に、このことを伝える場を創りたい」。その実現形がここに広がっている！と思いました。“なんのイベントですか？”と聞かれたので主旨をお伝えすると、とても共感していただきました。お祭りを楽しみに来た方にも、じんわりじんわりと大問題について考えてもらうイベントになっているのだと思います。主催された方々、関連団体の方々に心からの大拍手を送りたいです。

子どもたちの未来のために

かわさき生活クラブ生協 理事 福本 良子

太陽のチカラで発電したエネルギーを使って、星空の下、映画を観るなんて面白そう！と以前から気になっているフェスでした。今年は生活クラブブースの出展スタッフとして参加することとなり楽しみにしていました。

コロナ禍で子どもたちが楽しめる機会がめっきり減っていた中で、の野外イベント。こうやって万全の対策を取りながら、開催する方は覚悟決めるのも大変だったかと思いますが、やはり会場には多くの子どもたちが！！創作昆虫「ムシロボット」を作るワークショップを開催したら子どもに大人気で始まってから終わるまでずっと順番待ち状態でした。

我が家もここぞとばかりに家族みんなで楽しませていただきました。小学1年と3年の子ども達も、ムシロボットブースのスタッフとしてお手伝い♪ その合間に、出店や太鼓などのステージを楽しみ。

「映画まで全部観たい！」との声に押され、最後まで満喫しました。特に、映画後のキャンドルライトが灯る中、みんなで歌い踊った「パプリカ」。子どもたちがすごく楽しそうで、その様子にすごくジーンとしてしまいました。

コロナ自粛を頑張ってきた子どもたちにこんな楽しい機会を提供してくれたこと。そもそもおひさまフェスは、子どもたちの未来のために「再生可能エネルギー」を伝え広めるイベントだということ。

コロナ禍と雨予報で実行委員のみなさんも開催可否を相当悩まれたことも伺っていたので、それでも未来のために開催しよう！という想いがぜんぶ歌声と共に会場いっぱい広がっていた感じがして。子どもたちの今と未来、両方を幸せにしてくれる、なんて素敵なイベントなんだ～！とすごく感動しました。フェスに関わったこと、家族みんなで楽しませてもらったこと。とても感謝しております！ありがとうございました！



■10/20、無料 ZOOM 講座「再エネと民主主義」開催 —脱原発、再エネ 100%で可能にする、持続可能な未来のつくり方—

理事 高橋 喜宣



来る10月20日(水)19時～21時、NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所主催の「再エネと民主主義」という講座を ZOOM で開催します。

1970年代のオイルショックの当時、デンマークに原子力発電を利用しようとする案ができました。建設場所の候補にあがったのは、当時へき地で貧しかったロラン島。そこで、市民の運動が広がり、

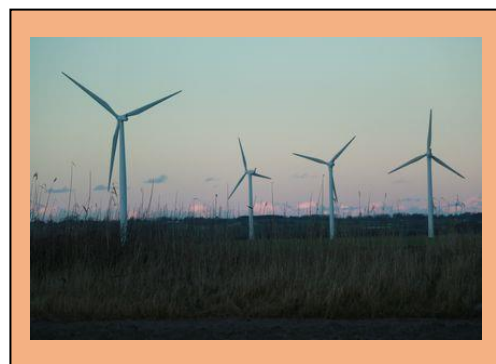
やがて賛成・反対の国民的な議論がまきおこりました。そしてついに85年に、政府は原発を採用しないという決断をしました。その結果、デンマークはどうなったのでしょうか？ 日本と比較すれば、脱原発の皆さんにとってとても興味深い話になります。

2001年からロラン島に在住しているジャーナリスト(2012年デンマーク・ジャーナリスト協会 Kreds2 賞受賞)のニールセン北村朋子さんに現地から報告してもらいます。

もうひとつの狙いは、この講座を通じて、民主主義のあり方の一例を学ぶことです。デンマーク政府は、原発賛成、反対の両方の論点を公平に取り上げ、議論を展開しました。昨今の菅首相のように意見が違うからとして(ご本人はそうおっしゃってないが)、日本学術会議が推薦した新会員を任命しないということはしませんでした。

更に、気候変動と政策決定のあり方もデンマークから学びます。デンマークでは、与野党間の政策に関係なく、「2050年までに電力、熱、産業、輸送のすべてのエネルギーを再エネでまかなう」という高い目標を掲げています。もっと具体的には、今年6月、「2030年までにCO2の70%削減」を明記した法律を作って覚悟を決めました。この講座を通じて、日本の持続的な未来のつくり方のヒントを探ってみませんか！

- 参加申込先：kawasakisaiene@gmail.com ●問合せ：044-722-6766 (担当：高橋)
- ※申し込みいただいた方に、後日、zoomのURLをお知らせします。



■「4号機通電 & 5周年記念イベント」ご案内 ※時間の変更があるかもしれません

- 日時：2020年12月20日(日)

4号機見学会	12:00 ~ 13:30
記念イベント	14:30 ~ 16:30
- 見学会集合場所：東急東横線 武蔵小杉駅改札 ●記念イベント会場：高津市民館 第5会議室
- 主催：NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所 ●参加費無料
- 参加申込先 メールアドレス：genpatuzero.hatuden@gmail.com



「ふくしま原発事故のその後」

8月25日、原発をなくす全国連絡会の連続学習会があり、「原発問題住民運動全国連絡センター」筆頭代表の伊東達也さんの講演がありました。主な内容をご紹介します。

『現在避難指示が解除されて指示の出た12自治体のうち双葉町を除く11市町村に帰還宣言が出たが、戻る人は少なく、居住率は30.4%。戻った人は高齢者が多く、子どもは極端に少ない。原因として放射能被ばくへの不安や、生活を支える基盤（働く場、交通機関、商店、医療や介護など）が極めて不十分であることがあげられる。比較的人口の多かった浪江町は居住者が1,428人（事故前人口2万1000人、居住率8.4%）、富岡町は1,472人（同1万6000人、11.7%）、大熊町244人（同1万1500人、2.4%）である。商店街も住宅地も取り壊しが進み、地域社会はともに機能できない状態である。一方7市町村にまたがって帰還困難区域（東京23区のほぼ半分の広さ）が残っており、居住していた約2万2000人には9年経った現在も帰還宣言は出ていない。

また、第一原子力発電所には、使用済み核燃料と、原子炉格納容器が溶けて流れ出した核燃料（デブリ）が多量に残っている。使用済み核燃料は今後20年近く冷却し続ける必要があるし（万一冷却不可能になれば第二の重大事故になる可能性もある）、880トンと推定されるデブリ（桁違いの放射線を出し続けている）は、その取り出し方法すら未定である。

そのほかにも、施設の老朽化が進み、耐震補強が必要であるとか、汚染水の保管場所が限界に近づいていること、除染のことなど、問題は山積みである。

人々の日々の暮らし、家も生業（なりわい）も故郷も、その全てを奪い去り、人と人とのつながりをこわし、地域を破壊した第一原子力発電所。私たちの未来はそのような危険なものではなく、もっと安全な自然・再生エネルギーに託したい。そのような思いを強くした今回の講演会でした。可能な方は是非YouTubeでご視聴ください。 <https://youtu.be/Xo1aRWDuhsM>



【編集後記】

台風シーズン到来。昨年10月12日のような浸水被害が起きないことを祈ります。

去る「おひさまフェス×星空上映会」では雨が一滴も降らず、奇跡が起きました（笑）。コロナが心配される中、約1,000人の来場者があり、お子さんたちにも楽しんでいただけた様子にスタッフ一同「やって良かった！」と感慨もひとしお。「再エネ」に関心を深めるフェスになっていたのであれば、なお嬉しいです。（加藤伸子）

■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189（川岸）

でん太通信は、ほぼ隔月15日に発行しています。

